

奈良市立鶴舞小学校

学校自慢の「ぼうけんの森」を核にした地域の自然環境を活かした教育活動の創造

森がつくるつながりを守る!

古代のシロップを再現

清少納言が『枕草子』で「削り氷にあまづら入れて」と書いた「あまづらせん」。奈良盆地の北西に位置する奈良市立鶴舞小学校では、5年生がこの“古代のシロップ”の再現を学習に取り入れて話題となっている。原料は冬季のツタの樹液だ。

この場所は一瞬、木々がうっそうと茂り立ち入ることができない森になったものの、約10年前から教員と児童、地域ボランティアが森の整備を始め、平成29年度には、階段などの整備が完了し、観察や採集が安全にできる「学習の森」となった。

さらに、あまづらせんの再現のように、理科から歴史などにも派生する教科横断学習につながっている。



生徒たちが育ててきた「ぼうけんの森」



森に自生する植物を観察



受け継がれる「緑のバトン」

森での学びが歴史教育に派生したことで思わぬ効果もあった。奈良とはいえ、新興住宅地にある鶴舞小の児童たちは、古都に住んでいるという意識が希薄だった。しかし、信田和則校長によると、「身の回りの自然が古代とつながったことで、自分たちが世界遺産の町に住んでいるということを意識するようになりました。さらに、そこから世界規模の環境問題を身近なこととして考える児童が増えたのです」という。

森を介した「つながり」はこれだけではない。毎年、6年生は、森の整備や清掃活動を行い、学習に協力してもらった地域の人々への感謝と森への思いを後輩に託して卒業していく。信田校長は、「いわば『緑のバトン』です。このバトンを受け継いでいくことでつくられる先輩たちとのつながり、そして、地域とのつながりを伝統として守り続けていきたいです」と願っていた。

(令和元年度個別助成)



●実施担当

信田和則 校長

●活動のモットー

教員側が児童に理想の型を求めない。自然の中での学びで、児童は五感をフル活用して何かを感じるので、ひとりひとりの「気づき」を大切にしたい。



息をふきかけて樹液を取り出し中



ツタの樹液を取り出す準備

学校概要



世界に羽ばたくグローバル人材の育成をめざす。平成29年度には地域協働を推進するコミュニティ・スクールに指定された。

設立:1965年

生徒数:313人

所在地:奈良市鶴舞東町2-1

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団

〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索